

CONTENTS

(敬称略)

- 7 はじめに
- 10 **第1章 きっかけは、facebookのメッセージ「職業音楽家の願い」**
〔第1号〕2020/4/10 職業音楽家の願い **武田雅博**
12 〔第21号〕2020/4/21 音楽に寄せて～感謝～ **吉田 稔**
- 14 **第2章 『おんがく広場』の誕生**
- 17 **第3章 オンラインの可能性を探る**
〔第2号〕2020/4/11 オンライン合唱はどこまで可能か？
〔第2号〕2020/4/11 LINEにチャレンジ...楽しく大失敗！ **千野千津**
18 〔第4号〕2020/4/13 オンラインでできることも... **Hiroshi Abe**
〔第5号〕2020/4/14 石川県でも緊急事態宣言出される **外 泰子**
〔第9号〕2020/4/18 音取りCDで練習と歌唱動画で楽しんでもらう **齋藤詩子**
19 〔第10号〕2020/4/19 取りあえずLINEがあつて良かった！ **塩崎めぐみ**
〔第11号〕2020/4/20 オンラインレッスンの可能性 **藤巻正充**
20 〔第17号〕2020/4/24 明けない夜はない 今は力を蓄えるとき **横山慎吾**
21 〔第18号〕2020/4/25 指揮や音楽創りできないオイラも辛い！ **窪田 卓**
- 23 **与えられた環境・ツールのなかで模索する<リモート合唱>**
〔第19号〕2020/4/26 リモート合唱を成功させるためのノウハウ **石若雅弥**
27 〔第24号〕2020/5/1 リモート合唱のために WAVES **井川 丹^{あかし}**
〔第25号〕2020/5/2 金沢二水高校 合唱版「うちで踊ろう」
28 〔第30号〕2020/5/7 管楽器奏者はどうしているの？ **江川善裕**
30 〔第28号〕2020/5/5 コロナパンデミックを合唱は乗り越えることができるか **櫻井元希**
32 〔第31号〕2020/5/8,〔第95号〕10/3 テレコーラスプロジェクト コロナ禍転じて楽となす
33 〔第38号〕2020/5/15,〔第62号〕6/27 リモート合唱「翼をください」動画募集 **南 めぐみ**
34 〔第48号〕2020/5/25 オンライン座談会《コロナ禍から見る『群青』の真実》
〔第50号〕2020/5/27 シニア世代合唱団のオンラインへの挑戦 **佐藤 拓**
35 〔第57号〕2020/6/10 シニア世代の声を集めよう！
〔第67号〕2020/7/20 シニア世代合唱団員のネット環境
36 〔第109号〕2020/11/5 暮れの第九、野外&リモート演奏で開催 **宇都宮第九合唱団**
37 〔第126号〕2021/2/2 <リモート合唱>で新曲初演
埼玉県合唱連盟クラウドファンディングで曲委嘱
38 〔第140号〕2021/8/25 タブレットで合唱指導 情報共有で全員に徹底！
〔第149号〕2021/12/30 全日本男声合唱 オンラインフェスティバル
- 39 **ネット環境と高齢者**
〔第33号〕2020/5/10 ITについてゆけない高齢者を置いてゆくことはできない！
40 〔第37号〕2020/5/14 平均年齢74歳 いつか歌える日を夢見て
〔第104号〕2020/10/21 再び歌い、幸せを掴もう **飯沼京子**

70	第7章 ポストコロナの合唱活動を考えよう	
72	「合唱の未来のために」千葉敏行	
73	第8章 コンクール、合唱祭、フェスティバル、講習会も中止に	
	〔第6号〕2020/4/15 全日本男フェス in 長野も中止！	Keishi KIMURA
	〔第8号〕2020/4/17 北海道の新型コロナウイルス対策	中村 浩
74	〔第44号〕2020/5/21 第87回NHK全国学校音楽コンクールが中止に！	
75	〔第49号〕2020/5/26 全日本合唱コンクール中止！	
	〔第54号〕2020/5/31 合唱コンクール県大会 64%が中止	
	〔第55号〕2020/6/1 合唱コンクール県大会中止76%に	
	〔第84号〕2020/8/27 福島県合唱コンクール 無観客開催	
76	〔第122号〕2021/1/14 埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト 延期から録音審査に変更！	
	〔第163号〕2022/3/18 声楽アンサンブルコンテスト全国大会 前年はコロナ禍で、今年は地震で中止に！	
77	第9章 コロナ禍、演奏会の延期や中止を乗り越え歌う	
	〔第2号〕2020/4/11 令和版一揆が起きてもおかしくない	鈴木 禎
	〔第6号〕2020/4/15 自宅でできる喉の鍛錬	瀬野俊樹
78	〔第7号〕2020/4/17 ヴェルディ『レクイエム』7月公演延期	安倍武明
	〔第7号〕2020/4/17 <歌劇 幕臣・渋沢平九郎> 翌年に延期	齊藤則昭
79	〔第8号〕2020/4/17 埼玉第九合唱団の現状	新祖 章
	〔第9号〕2020/4/18 感染者ゼロの岩手にも緊急事態宣言	宮野哲美
80	〔第10号〕2020/4/19 パリンカ30周年記念演奏会 来年に延期	齋藤栄一
	〔第12号〕2020/4/21 未知の世界へ	千葉敏行
81	〔第13号〕2020/4/22 2020年の演奏会中止 練習再開は9月	岩井純一
82	〔第22号〕2020/4/29 いま、コロナに思う～アマチュア合唱人として～	高三洋之
83	〔第25号〕2020/5/2 <メール対談> 合唱の将来像を求めて…	古澤利人 & 加藤良一
84	〔第29号〕2020/5/6 先行きの見えないライブハウスの苦悩	
	〔第34号〕2020/5/11 歌を忘れたカナリアにならぬよう	宮沢さかえ
85	〔第36号〕2020/5/13 学校活動の再開にあたり考えること	霜崎大知
	〔第37号〕2020/5/14 メンバーのつながりを大切にしたい！	西山俊雄
86	〔第43号〕2020/5/20 新型コロナウイルス感染と合唱活動	藤田正浩
88	〔第60号〕2020/6/23 コロナで休止後、初の練習開始	蓮沼喜文
90	〔第61号〕2020/6/25 自分の路は自分で決めよう！～新型コロナ禍の合唱活動再開に向けて～ 芦屋合唱協会の取組み	西牧 潤
92	〔第79号〕2020/8/18 コロナ禍での一步を踏み出す	水野雅文
93	〔第87号〕2020/9/1 宝塚少年少女合唱団 秋のコンサート開催ベガ・ホール コロナ禍以降初のコンサート	西牧 潤
94	〔第101号〕2020/10/14 神戸中央合唱団 7か月振りの練習再開	北畑雅敏
95	〔第105号〕2020/10/23 Chorus Meets & Ensemble Spicyジョイントコンサート実施報告	藤森 徹
96	〔第110号〕2020/11/9 続々と年末の第九公演開催	
	〔第112号〕2020/11/18 12月以降の催物の開催制限 より具体化・取組み強化	
98	〔第113号〕2020/11/23 万全の対策で開催 東京男声合唱フェスティバル	行木友一 / Keishi KIMURA
99	〔第113号〕2020/11/23 音楽、芸術の力を示す ウィーン・フィル ノブレスオペリージュの誇り	
100	〔第121号〕2021/1/5 野外の開催に漕ぎつけた第九 宇都宮第九合唱団	齋藤真弓

はじめに

新型コロナウイルス感染症「緊急事態宣言」で静まり返る街

新型コロナウイルス感染症は、令和元年(2019)12月中国湖北省武漢市で発生した原因不明の肺炎患者から検出された新種のコロナウイルスに端を発したといわれている。その2か月後、WHOは新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19」と定めた。

日本国内における最初の患者は、武漢への渡航歴のない60代男性であった。その後、日本中に蔓延したことを受け、ついに令和2年(2020)4月7日、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が出され、外出自粛となるに至った。しかし、なすすべがないまま感染はますます拡大し、ついにパンデミックという最悪の事態を迎えてしまった。世界に誇れるはずであった日本の医療システムが、いざ非常事態となると意外にも脆弱であったことに多くの国民は失望した。国難ともいわれるこのたびのコロナ禍は、日本をいや世界をも一変させてしまった。

そして、すべてはここから始まった。

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言

新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定に基づき、下記のとおり、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態が発生した旨を宣言した。

1. 緊急事態措置を実施すべき期間

令和2年4月7日から5月6日までとする。ただし、緊急事態措置を実施する必要がなくなったと認められるときは、新型インフルエンザ等対策特別措置法第32条第5項の規定に基づき、速やかに緊急事態を解除することとする。

2. 緊急事態措置を実施すべき区域

埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県及び福岡県の区域とする。

3. 緊急事態の概要

新型コロナウイルス感染症については、

- ・肺炎の発生頻度が季節性インフルエンザにかかった場合に比して相当程度高いと認められること、かつ、
- ・感染経路が特定できない症例が多数に上り、かつ、急速な増加が確認されており、医療提供体制もひっ迫してきていることから、国民の生命及び健康に著しく重大な被害を与えるおそれがあり、かつ、全国的かつ急速なまん延により国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある事態が発生したと認められる。

我が国において、かつて経験したことのない非常事態に世の中のあらゆる活動が停止した。感染症の専門家といえども未知のウイルスに首を捻るばかりであった。

》》 フリーランス音楽家の窮地を目の当たりにして

緊急事態宣言により、社会のあらゆる分野で仕事がなくなり、困窮する人々が続出した。もちろん音楽芸術の分野も例外ではなく大きな影響が出た。

行動自粛や公共施設の閉鎖で行き場を失ったフリーランスの音楽家からは、悲痛な声が聞こえはじめた。人々が対面で向き合うことができないということは、音楽会など開けず、ヴォイストレーニングなどの指導もできない、つまり音楽家としての仕事の場を奪われたのであった。フリーランスとは、特定の企業や団体、組織などに専従しておらず、業務委託によって自らの技能を提供することにより社会的に独立した個人事業主のことで、フリーランサー、フリーエージェントとも呼ばれている。

フリーランスの音楽家の声を多くの音楽愛好家に届け、異常な状態における悩みを共有し、打開策を探らなければならない。では、いったいどうすればよいのか。

フリーランスの指揮者に指導を仰いでいる合唱団ではどう対処しているのだろうか。合唱団ごとに事情はさまざまである。それら個別の情報を共有し、参考にすることで、フリーランスの方々に何らかの支援を行えるのではないのか。それはとりもなおさず、合唱文化を絶やさないことに直結するのではないか。

とにかくじっとしてはいられなかった。そう考えて行動を起こした結果、生まれたのが『おんがく広場』であった。発行元の<クッキー会>は、音楽関係者5人のユルイ集まりで、名前の由来は埼玉県久喜市を中心に居住しているからというだけのもの、筆者が編集責任者となってスタートした。

》》 続々と寄せられる原稿

『おんがく広場』は、令和4年(2022)8月現在、183号に達している。作曲家、指揮者、ピアニストはじめ器楽演奏者、オペラ歌手、合唱団員など音楽関係者延べ70人以上の方々が原稿をお寄せ下さった。また、原稿は頂かなくとも、facebookやメールで情報交換するなかで頂いた情報を整理し記事としてきた。本来は原稿料についても、お支払いしなければならないところであるが、こちらはボランティアでやっているため、無償でお願いしなければならず、心苦しいかぎりであった。

また、筆者が独自に調査を重ねて調べたことや、『おんがく広場』編集部メンバーの示唆に富む助言によっても助けられ、活動を続けることができた。いずれにせよ、多くの方々のご支援によって『おんがく広場』が成り立っていることに、あらためてお礼を申し上げる。

》》 貴重な情報を整理して残したい

『おんがく広場』は、筆者が運営しているホームページ<シュンボション>に専用ページを設けて常時掲載しているが、内容が多岐にわたり、全体が見渡せないことに気が付いた。そこで、多くの音楽・合唱関係者から頂いた貴重な情報(記事)をひとつにまとめ、見やすいものにする決心をした。それが、即ちこの本である。

あらためてバックナンバーを読み直し、カテゴリごとに分けてみると、『コロナ禍の合唱』がどのようなものであるかがよく見えてきた。足元を見つめ直す機会ともなるし、さらにはコロナ禍の記録としても意義があるのではなからうか。当時の声のままここに再現したい。ご提供いただいた情報をきちんとまとめて後世に繋げるのも編集者の大きな責任であろう。

全体を以下の10章に分けた。

- 第1章 職業音楽家の願い
- 第2章 『おんがく広場』の誕生
- 第3章 オンラインの可能性を探る
- 第4章 マスクに振り回された2年間！
- 第5章 見えないウイルスとの闘い マスクと飛沫の実証実験
- 第6章 ガイドラインはあくまで参考
- 第7章 ポストコロナの合唱活動を考えよう
- 第8章 コンクール、合唱祭、フェスティバル、講習会も中止に
- 第9章 コロナ禍、演奏会の延期や中止を乗り越え歌う
- 第10章 2020年の音楽文化

巻末に参考資料として、新型コロナウイルス感染症が発生してから、政府が打った主な対策と全日本合唱連盟の動きを時系列で分かりやすくグラフにした「新規感染者数の推移と全日本合唱連盟の対応」、「新型コロナウイルス感染症に対する各種措置の推移」などを掲載した。

第 1 章

きっかけは、facebookのメッセージ「職業音楽家の願い」

【第1号】2020/4/10

職業音楽家の願い

武田雅博

令和2年(2020) 4月上旬、facebookに指揮者の**武田雅博**さんが「職業音楽家の願い」と題するメッセージを投稿された。それは、合唱指揮などを行っているフリーランスの音楽家、とくに若い音楽家の苦しい胸のうちの代弁するものであった。ご許可を頂き『**おんがく広場**』第1号に収録させていただいた。

職業音楽家の願い

音楽家・指揮者 **武田 雅博**

お願いです。僕のfacebookのお友だちの中には、合唱愛好家の方々がたくさんいらっしゃいます。きっと、断腸の思いで毎回の練習を中止されていることとお察しします。皆さんの生活の潤いが失われて、合唱したい！と思っていらっしゃることでしょ。元気を出してくださいね！

ここで本題です。そんな皆さんにお願いがあります。合唱の「先生」は、いったいどうしているでしょう。想像してみてください。もしも「先生」が合唱指導や演奏活動だけで食べている、フリーランスのプロの合唱指揮者なら…。もしも「先生」が若手の合唱指揮者なら…。「先生」が大金持ちの息子、娘なら心配無用です。しかし現実には…(令和2年) 3月中旬あたりから収入はゼロ。今後の見通しは立たず。家賃をはじめ経済的に追い詰められている頃なのではないでしょうか。僕くらいの年代になると、多少なりとも蓄えもあり、何とか生きていけますが若い合唱指揮者たちが心配なのです。

今、彼ら彼女らを経済的に救えるのは、皆さんしかいないと思うのです。大学合唱団員も考えてください。児童合唱団なら保護者の方々が考えてください。フリーランスの音楽家への救済制度を具体的に上げている国もあるようですが、日本は全く期待できません。フリーランス、しかも合唱指揮者をリスク承知で選んだのだから、自己責任……でしょうか。

合唱愛好家の皆さん、これからの合唱界を背負っていく、若い合唱指揮者たちを、どうか経済的に支えてあげてください。いつも練習に付き合ってくれるピアニストを支えてあげてください。

彼らは、中止された練習に関して自分から「キャンセル料ください！」とは言いづらいはずで。僕だって言えません。以上、一応ベテランと言われる年代になった、合唱指揮者からのお願いです。よろしく願います！

武田雅博さんのこの問いかけを読み、これはただ事ではない、われわれ合唱愛好家に果たしてどれほどのことができるのだろうか、と自問自答する日が続いた。

『おんがく広場』創刊当初は、世の中がとてつもなく緊迫し、大混乱に陥っていた。あれこれ悩み模索していた多くの合唱人がいた。今から振り返っても、あのときの不安感や焦燥感が蘇ってくる。

PROFILE



武田 雅博 合唱指揮者

1953年東京生まれ。国立音楽大学教育音楽学科卒業。1977年ウエストミンスター・クワイヤ・カレッジにて研修、合唱指揮法最優秀ディプロマを取得。同年、ロバート・ショウ氏のワークショップに参加し、合唱指導法を学ぶ。岡本敏明、小山章三、萩原英彦、デニス・シュルックの各氏に師事。

現在、合唱指揮者としてコンサート、レコーディング、新作の初演、コーラスマスターとしてプロオーケストラとの共演など、演奏活動に取り組んでいる。また、全国各地での合唱講習会、指導者講習会、全日本合唱連盟ならびにNHK全国学校音楽コンクールで、講師・審査員を数多く担当している。NHK Eテレ「スーパー合唱教室」講師、Nコン課題曲の放送初演指揮者を歴任。

『短時間でうまくなる合唱指導』(音楽之友社)著。『おもしろ合唱事典』(音楽之友社)著。『合唱のための実践練習書』(ヤマハミュージックメディア)共著。『歌いつく日本のうた』(教育芸術社)監修。他、編著、CD、DVDなど多数。

国際合唱連合(IFCM)、日本演奏連盟、日本合唱指揮者協会、各会員。

第 2 章

『おんがく広場』の誕生

Home Page/facebook/twitter

題字(紙名)は迷わず『おんがく広場』に決定！

フリーランスの音楽家が抱える問題は、ひとり個人の問題ではなく音楽界全体の問題である。筆者はホームページ「シュンポシオン」を開設し、ふだんからいろいろ情報を発信している。このツールを何とか利用できないだろうか。真っ先に思いついたのは、ホームページに加え、facebookやTwitterなどのSNSで情報を発信することだった。しかし、断片的に投稿していたのではまとまりを欠くし、ふつうはその場かぎりに終わってしまうだろう。

さらに、どのような情報を発信するのか、それをはっきり決める必要があった。音楽家や合唱人はどのような情報を必要としているのか、共有できるものは何か。おそらく簡単に手に取れる新聞のようなものが使いやすいのではないか。

しかしながら、ホームページやSNSをすべての音楽合唱関係者が閲覧できるわけではない。ネット環境がない方にも届ける方法はないものか。それには、ネットで見た方がそれを紙にプリントし、同じ合唱団あるいは周囲の仲間に配布して共有してくれればよいのではないか。そのためには、プリントしやすいA4サイズの新聞形式がもっとも使い勝手がよいにちがいない。

手持ちの画像処理ソフトPhotoshopで体裁を整え、題字(紙名)を『おんがく広場』と名付けて作成に着手した。新聞というにはいささか規模が小さいが、音楽に関わる人たちが気楽に集えるコミュニケーションの場、という意気込みであった。あまり考える時間もないまま、急ぎ発行に漕ぎつけたいと強い思いで、装飾は後回しにして作業を進めた。

記念すべき第1号の題字を下に示した。分かりやすさのために枠を付けたが、元は枠もない簡素なものだった。



その後、発行するたびに少しずつ手直しを加え、現在のデザインに至ったが、けっきょく最初のものとさほど変わらないデザインに落ちついた。

それが5月1日、テレビ朝日のミュージックステーション(Mステ)で取り上げられ話題になった。

【第30号】2020/5/7

管楽器奏者はどうしているの？

江川善裕

合唱は声を出すから飛沫などの問題が大きいかと思うが、吹奏楽も大量の息を使って演奏するから、果たしてどうやっているのかと、『おんがく広場』発行元のクッキー会メンバーの、**江川善裕**さんに聞いてみた。

私も含めて家で音を出せる人は練習しておりますが、私が指導している市民吹奏楽団のひとつを例にすると団員の半数は家では練習できません。「河原などに行って吹けばよいのでは？」とも思いますが、砂埃など楽器に決してよい環境ではないようです。



一方、テレワークによる演奏が頻繁にYouTubeにアップされていますが、あれは技術者がいて為せることです。私自身も多重録音を試しに行い、うまくいけばほかのメンバーを誘おうかと思いましたが、なかなかうまくいきません。試行錯誤のうえ、なんとかまとまったものの、素人にとってはかなりの労力です。逆に言えば、みんなで集って合わせることの大切さをあらためて知らされました。

人間は結局アナログだからでしょうね。一緒に合わせるということは(カメラやマイクに向かっての一方通行ではなく)お互いに他者の音や息遣いを聴き合いながら歩み寄ることができ、それが魅力ということなのです。

もう一つ指導している市民吹奏楽団も対策をあれこれオンライン会議で検討していますが、会場が使えてはじめて解決することばかりです。なので、公共施設側(自治体)は利用する際の(三密にならない)「新しいガイドライン」を作って、以前のように貸し出しをしてほしいのです。そうしないと、本当に(新型コロナウイルスよりも先に)市民の文化活動のほうで終息してしまいます。きょうまで1ヶ月間の自粛生活を営んできました(実質2ヶ月以上の自粛生活)。加えて5月末までの緊急事態宣言延長。そこでも「人と人の接触を極力8割削減に向けて」と言います。本来、人と人との関係は「膝を交える」ことが重要だったはず。そういう意味で、音楽活動は人間の本質的な行動な訳です。

「コロナの時代の新たな日常」と言いますが、それは人間らしさをなくす日常なのではないかと感じています。

ウイルス(病気も)を完全にゼロにするのは不可能なのですから、クオリティ・オブ・ライフ(QOL=生活の質)を維持する考え方が必要だと思います。もちろん、個人でできる予防対策をきちんと日常的に行って、QOLを選択する覚悟は必要です。



私が参加したテレワーク合奏

◆熊谷吹奏楽団「うちで踊ろう」

<https://youtu.be/1OElH5G4vjA>

メンバーが大分集まってきましたが、まだ多少演奏者が偏っています。元団員と一緒にできるのもテレワークならではです。日々進化中。

実験条件				
測定器からの距離0.5m	N95マスク	歌えるマスク	マスク無	発声
条件1	●	—	—	—
条件2	—	●	—	●
条件3	—	—	●	●
測定器からの距離2m				
条件4	●	—	—	—
条件5	—	●	—	●
条件6	—	—	●	●

計測器までの距離を0.5mと2mに設定し、①医療用N95マスク、②東混歌えるマスク、③マスクなし、の3条件に加えて、発声の有無を組合せた6つの条件で測定した。

たとえば、条件2は、②東混歌えるマスクで発声した場合という組み合わせである。

被験者と測定器に直接空調の送風があたらないようにし、測定開始時には人の移動による室内空気の乱流が生じないように配慮した。

また、このホールには、被験者からの飛沫以外にもその場に浮遊している粒子があるので、それを打ち消す条件として、呼気からの粒子という要素を除外するために発声しない条件1、4を設定している。

パーティクルカウンターからの距離0.5mでは、①と②は、③と比較して統計学的に有意差を認めなかったが、マスクを装着することは総合的に飛沫量を低減させることが考えられた。

実験結果は、「声楽家による発声課題時の飛沫量とマスク装着による飛沫量の抑制効果に関する報告書」として公表された。

【第117号】2020/12/20

安全性と快適さの両立を目指す東混・歌えるマスク

東京混声合唱団が開発した「歌えるマスク」は、いくつかの検証によって、下部から飛沫が漏れると指摘されており、これを扱う(株)パナムジカでは、12月18日その安全性についてあらためて次のような見解を発表した。

全日本合唱連盟が実施した「合唱活動における飛沫実証実験」やクラシック音楽公演運営推進協議会が実施した「声楽・合唱における飛沫感染リスク検証実験」の報告書において、歌唱用マスク（下部開放型マスク）は、一般的な形状のマスクよりも飛沫抑制性能が劣るという考察が提示されています。

一方で、一般的な形状のマスクは呼吸や口の動きが制限され、歌唱において様々な困難が生じることも事実であります。歌唱用マスクは、感染（飛沫拡散）のリスクを低減しつつ、一般的な形状のマスクのネックとなる歌唱面での課題を解消するべく開発されたものです。弊社といたしましては、これらマスクは「合唱活動の安全を保障するものではない」という前提のもと、感染リスクを低減することと歌唱・合唱を快適に行うことの両立を図るためのツールとして販売を続けております。製品の特性をご理解いただき各合唱団や練習施設の状況に応じてご活用ください。なお、より感染リスクを抑えるために下記の点にご留意のうえご使用いただくことを推奨します。

- ・参加者の体調管理や、部屋の換気、距離の確保など、各種施設や団体が示す通常の感染対策を併用する。
- ・練習や演奏時以外の感染対策に注意する。（歌唱時以外にも感染のリスクが存在することを参加者が理解し行動する。）

2020年12月18日 株式会社パナムジカ

<http://www.panamusica.co.jp/ja/appeal/utaerumask/>

感染防止策は、環境によって大きく変わる。使用場所の換気条件はどうか、演者間の距離や客席との距離は十分か、参加者の健康管理は適切かなどである。極論すると、世の中で活動する限りウイルス感染から完全に逃れるのは不可能かもしれない。

リスクとメリットを勘案して考え得る限りの対策を施し、その結果をフォローすることが欠かせない。万一感染が起きてしまった場合はその原因を調べ、次の対策に生かすことこそが求められる。

〔第81号〕2020/8/22

歌えるマスク 勝手にランキング

西尾岳史

マスクがいろいろ出揃ってくると、どれが良いのか気になるところだが、声楽家・指揮者の西尾岳史さんが、マスクを実際に装着して歌いその良し悪しを比較した。あくまで個人的見解としたうえでランキングをつけ、YouTubeに公開した。

★第1位 東混製〈歌えるマスク〉

栄えある第1位に選ばれたのは東京混声合唱団が合唱用に開発した東混マスクであった。口に付かないので呼吸しやすく、ふつうのマスクより開放感があり籠った感じがない。

マウスシールドより合唱向きの感じがする。表情が見えないのは他のマスクと同じ。透明な素材で作れたらなお良い。

縦の長さは25cm、色は4種類あるが指定できない。東混から直接買う場合は10枚セットだが、楽譜出版のパナムジカでは1枚(1300円)から買える。



★第2位 ウレタンマスク

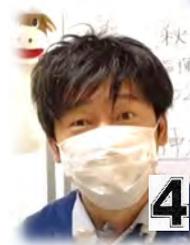
息が吸いやすい(これは通気性が良いということか…)。音は多少籠った感じがするが、意外と使いやすかった。



★第3位 マウスシールド

呼吸に問題はないが、プラスチックとの距離が近いせいか当たって響く音がする。音が籠ることはない。周りの音も聴きやすい。飛沫は防げると思うがエアロゾルはどうか分からない。

顎で支えるので、歌うとき顎に力が入りやすい人はさらに力が入る可能性あり。人によってははずり落ちることがあるかも知れない。ソロに適しているだろうか？



★第4位 不織布マスク

軽いが密閉感がある。音が籠る。思うように息が吸えないので長時間歌うと辛いかも知れない。

★第5位 手作り布マスク

顔に合わせて横幅を広くしてあるので密閉度がよい。音はやや籠った感じがする。お気に入りのハシビロコウの柄はおしゃれ用で普段使いに愛用している。



★第6位 アベノマスク

比較のために初めて開けたが独特の匂いがする(気持ちが悪い…)

第 7 章

ポストコロナの合唱活動を考えよう



『おんがく広場』を長く続けられているのは、令和2年(2020)4月25日、男声合唱団「合唱団パリンカ」(仙台)の指揮者であり、小学校教員でもある千葉敏行さんが管理者となって、facebookに『ポストコロナの合唱活動を考えよう』という公開グループが開かれたことである。

<https://www.facebook.com/groups/222840199011862/>

グループ開設にあたり、千葉さんは管理者として次のように述べている。

このこのたび「ポストコロナの合唱活動を考えよう」というグループを作りました。自己紹介となりますが、仙台の男声合唱団「合唱団パリンカ」の指揮者を始めて今年で30年になります。小学校の教員で、勤務先では子供たちの合唱団の指導もしています。本当に悲しい、悩ましいことだらけです。困ったことだらけです。主に以下のことについて情報交換したいと考えています。

- ① 練習再開に向けて
 - ・小学校～高等学校の部活動再開
 - ・大学生サークルの再開
 - ・一般合唱団の練習再開
- ② 練習再開までにできること
 - ・自己研鑽
 - ・オンラインレッスン
 - ・情報発信・情報交換
- ③ 練習再開したらやりたいこと
- ④ ポストコロナを生き抜くには合唱団がすべきこと



ポストコロナの合唱活動を考えよう

埼玉では加藤良一さんが『おんがく広場』を発行し、コロナ時代の合唱について情報発信を続けています。たくさんの方の刺激と勇気をいただきました。

現在私たちは、想定外・前代未聞の毎日を過ごしています。コロナは極めて合唱と相性が悪いジャンルです。また、「三密」回避の活動はさまざまな困難を抱えています。現在オンラインによる様々な模索や実践が続いています。しかし、明けない夜はありません。活動再開に向けて策を練らなければなりません。ポストコロナの合唱は様々な困難を抱えています。

「三人寄れば文殊の知恵」といいます。よろしくお願い致します。

この公開グループを立ち上げた翌日の4月26日には、全国各地から合唱人が集まり、瞬間に500名を超えるほどの状況だった。それほどまでに、多くの合唱人が、悩み、危機感を持っていたということである。

〔第20号〕2020/4/27 千葉敏行



最初に窓を開け換気。会場内の椅子、机等を施設で用意していた消毒薬を含ませたキッチンペーパーで拭く。ピアノだけは薬品注意です。除菌シートくらいかなと。

事前に体温、体調確認、人数にも気を付け、ある程度距離を取り、マスクのまま声をセーブして歌いはじめました。まずはハミング、詩をリズム読み、やさしく歌う。

時には外側の壁に向かって歌うことも。以前から耳を使ったアンサンブルトレーニングの為に良くやった練習なのでスムーズに進行。これが大人の合唱団が毎回歌うのには現実的な方法ではないかなと思います。



個人的な意見ですが、フェイスシールドはあまり意味ないかなと。窮屈なわりに口元が空いていてマスクしているだけと変わらない。目にだけは良いかもしれませんが。何よりも異様。大きな透明スクリーンで指揮者と間仕切りを試しましたが大袈裟かも。しかもこれは面倒くさい、大がかり、運搬も大変、私の車では…

ホームセンター・カインズでビニールシート2m、ニトリで衣装ハンガーと物干し竿、洗濯バサミを購入、組み合わせてみました。

ジュニア向けの対応

合唱団によって対応は違いますが、ジュニアコーラスには以下のようなマニュアルを作りました。参考までにご紹介します。

— 新型コロナウイルス感染症を防ぐために — 活動にあたってのお約束

■家を出る前に…

- ① 必ず検温をしてきて下さい。
- ② 体温は37.5度を目安としますが、熱以外に体調の優れない時も参加はお控えください。
- ③ マスク、清潔なハンカチorタオル、飲み物、上履きは必ず持参してください。また必要な方は除菌シートを持たせてください。
- ④ 開始時間の10分より前の早すぎ到着が無いように ギリギリでお願いします。また、スムーズな退室にもご協力ください。
- ⑤ ご家庭内に発熱や咳など諸症状のある方がいらっしゃる時は、お休みしてください。

■内野公民館内では…

- ① 入口と出口は別々です。駐車表に記入の際は自前の筆記具をお使いください。
- ② 手指消毒を必ず行ってください。アルコールが気になる方は、ご家庭で使用しているものを持たせてください。

Ukraine Support Concert on 11 March 2022
Maestro Ken-ichiro Kobayashi (commonly called Koba-ken) stands to send a musical cheer from Japan to the people of Ukraine, where Russia continues its aggression.

On the evening of March 11, Mr. Koba-ken and his friends orchestra held a "Ukraine Support Concert" at the GlobalRing Theater, an outdoor theater in Ikebukuro West Exit Park.

(冒頭のみ)



【第166号】2022/4/12

東京六大学合唱連盟 第71回定期演奏会 東京六連奮闘！ 合同ステージなし

東京六大学合唱連盟は、第69-70回と2年連続で中止となり、今年こそはと満を持しての開催を目指していた。そして5月1日(日)第71回定期演奏会は無事開かれた。しかし、とても残念だったのはメインの合同ステージが見送られてしまったこと。さらに寂しかったのは法政大学アリオンコールがメンバー不足で参加できなかったことである。

東京六大学合唱連盟は、東京所在の6つの大学で構成する連盟。通称「六連」が、混声合唱の東京六大学混声合唱連盟と区別するため、「男声六連」あるいは「男六」と呼び、関西と区別するために「東京六連」とも呼んでいる。



東京六連は、昭和26年(1951)、NHKラジオで東京六大学野球連盟の校歌、応援歌を放送するために、各校合唱団が競演したことがきっかけで結成された。

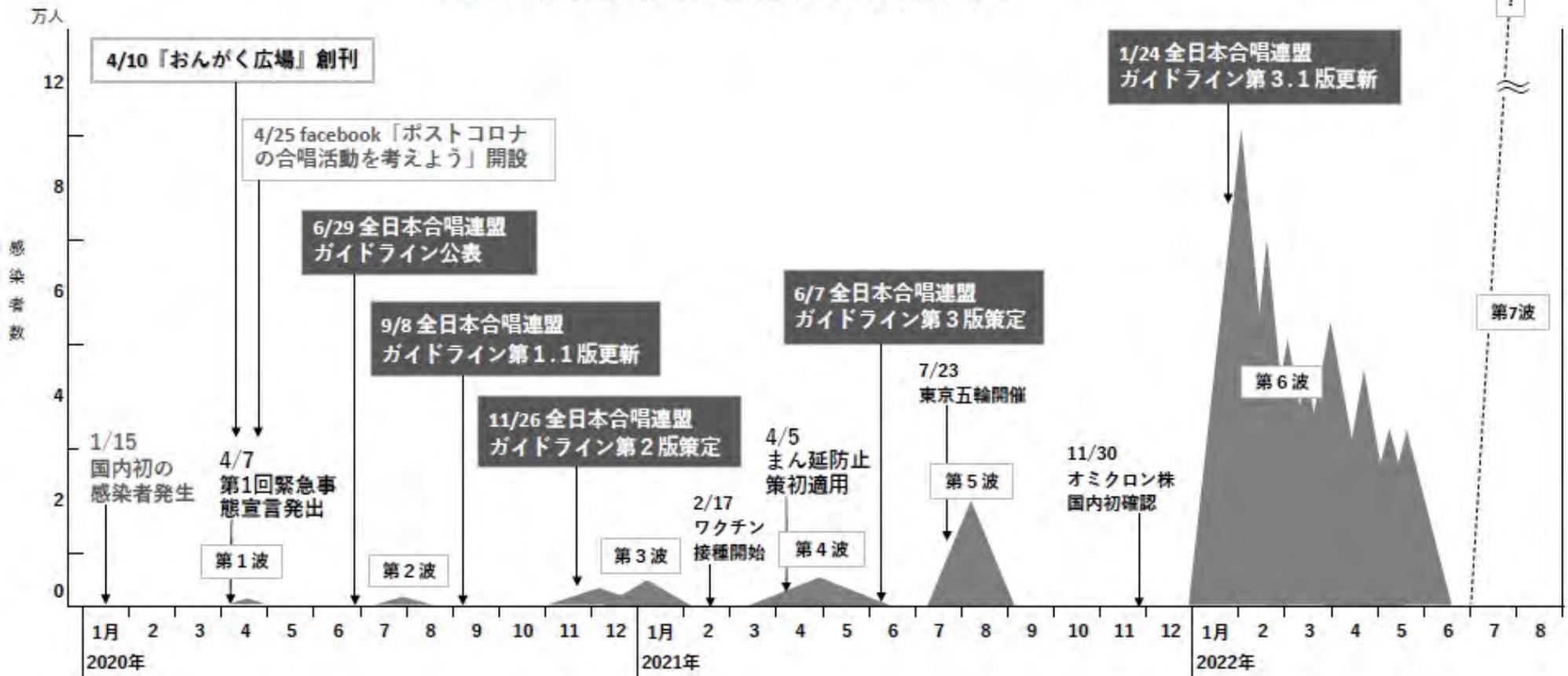
各校OB合唱団の「東京六大学OB合唱連盟」も設立されており、平成11年(1999)から演奏会を開いている。

どの大学OBとも、現役団員の減少に頭を悩ませているが、OBができることは限られている。現役の奮起とそれをバックアップするOBとの連携に期待したい。

第71回定期演奏会プログラム

- ❖ 立教大学グリークラブ
National Anthem à la carte
- ❖ 慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団
男声合唱とピアノのための組曲「ハレー彗星独白」
- ❖ 明治大学グリークラブ
無伴奏男声合唱のための「カウボーイ・ポップ」
- ❖ 早稲田大学グリークラブ
16分で分かる! 平成 J-POP史
- ❖ 東京大学音楽部コールアカデミー
Mass for Three Voices (三声のミサ)
(欠場：法政大学アリオンコール)

新型コロナウイルス感染症 新規感染者数の推移と全日本合唱連盟の対策



『 おんがく広場 』 編集部：クッキー会

クッキー会は、埼玉県久喜市を中心とした音楽家と合唱人で構成するユルイ集まりである

南 めぐみ

MINAMI Megumi

合唱指揮者
埼玉県合唱連盟常務理事
女声合唱団コーラル・ソシア
/女声合唱団くりの実
/混声合唱団T.friends
/男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニー指揮者

加藤良一〔編集責任者〕

KATO Lio-ichi

男声合唱プロジェクトYARO会主宰
男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニー団長
男声合唱団コール・グランツ団長
元埼玉県合唱連盟理事
作曲家多田武彦公認サイト運営



星野英明

HOSHINO Hideaki

男声あんさんぶる「ポパイ」
元男声合唱団コール・グランツ

新祖 章

SHINSO Akira

全日本合唱連盟
関東支部事務局長
元埼玉県合唱連盟副理事長
元埼玉第九合唱団団長

江川善裕

EGAWA Yoshihiro

サクソ奏者・指揮者
元全日本合唱連盟事務局次長
国際合唱連合理事
鷺宮ウインドアンサンブル創設指揮者
熊谷吹奏楽団副音楽監督